

特集

第40回日本小児放射線学会総会シンポジウムより 小児における医療被ばく—特に小児のCTについて— Medical Radiation Exposure in Children

序 文

藤岡 睦久

日本小児放射線学会理事長，獨協医科大学放射線医学講座

平成16年6月25～26日に長崎大学名誉教授 林邦昭会長の下で開催された第40回日本小児放射線学会において、シンポジウムとして取り上げられた「小児における医療被ばく—特に小児のCTについて—」を、そのまま標題として本誌で取り上げることになった。小児の放射線診療に携わるもの全てが、十分に熟知した上で診療に当たるべき事項であるが、そればかりではなく、社会的に高い関心を呼んでいる事項であるが故に、指導的立場で国民の理解を受ける必要があると考える。

我が国においては、現在の状態で、診断用X線によって癌が3.2%（年間7,587件）増える可能性があるという論文がLancetに発表され、それが報道され大きな問題となっている。それに先立つこと2001年1月22日付の米国の全国紙であるUSA TODAYで、「米国では毎年160万人の子供にCTが行われており、そのうち1,500人が後にガンになる」という記事が掲載され、全米のみならず世界中にセンセーションを巻き起こしたものである。その元になった論文はAJR Am J Roentgenol誌に掲載されたものであり¹⁾、その掲載責任者である編集長のLee Rogersはその次の号の巻頭言の締めくくりとして「Once informed, radiologists and technicians alike will make the necessary adjustments to do what is right for the children we serve.」と言っている²⁾。

この社会的な反響を受けて、米国の小児放射線学会であるSociety for Pediatric Radiology (SPR) では直ちに会員をシカゴに召集して、カンファランスを開催し、その結論をEuropean Society of Pediatric Radiologyとの共同機関誌であるPediatric Radiology誌に発表した³⁾。同時にカンファランスの結果を受けて米国食品衛生局 (FDA) も警告文を発表し、同誌に掲載された⁴⁾。

私自身もSPRの名誉会員であり、アジア・オセアニア小児放射線学会理事長という立場もあり、召集に応じてシカゴの会議に出席した。ちなみに日本小児放射線学会の会員は全て自動的にアジア・オセア

ニア小児放射線学会 (AOSPR) のAssociate memberであり、平成16年1月より、Pediatric Radiology誌がAOSPRの機関誌となることが承認され、表紙に名前が加わることになった。言い換えればPediatric Radiology誌は日本小児放射線学会の英文機関誌としての機能を持つことになったと言える。

その後機会を捉えては、小児のCT被ばくの問題について取り上げてきたが⁵⁻⁸⁾、このシンポジウムに招待された専門家の手によって正確で最新の情報が会員に届けられることは、この上ない喜びである。

- 1) Brenner DJ, Elliston CD, Hall EJ, et al : Estimated risks of radiation-induced fatal cancer from Pediatric CT. AJR Am J Roentgenol 2001 ; 176 : 289-296.
- 2) Rogers LF : From the Editors Notebook. Radiation Exposure in CT : Why So High? AJR Am J Roentgenol 2001 ; 177 : 277.
- 3) Conference on the ALARA (as low as reasonably achievable) concept in pediatric CT intelligent dose reduction, Ed. by Slovis TL. Pediatr Radiol 2002 ; 32 : 217-317.
- 4) FDA Public Health Notification : Reducing radiation risk from computed tomography for pediatric and small adult patients. Pediatr Radiol 2002 ; 32 : 314-315.
- 5) 藤岡睦久：(特集1) 第13回年次大会「高橋信次記念講演とシンポジウム」(2002年12月13日) 記念シンポジウム「21世紀の医療被ばくの新しい防護体系に向けて」小児X線CTの場合。医療放射線防護NEWSLETTER 2003 ; 37 : 17-21.
- 6) 藤岡睦久：放射線診療におけるリスク・マネジメント 2 放射線被ばく低減対策。臨床画像 2003 ; 19 : 1366-1370.
- 7) 藤岡睦久：一巻頭言—「小児X線CT被ばく」と社会現象。医療放射線防護NEWSLETTER 2004 ; 40 : 1-2.
- 8) 藤岡睦久：小児における被ばくとその影響。Radiology Frontier 2004 ; 7 : 275-278.